

# 石巻市内で活動している社会福祉法人のご紹介

## 第3回インタビュー

### 社会福祉法人つつじ会

平成28年4月から改正社会福祉法により、社会福祉法人による「地域における公益的な取組（社会貢献事業）」の実施が法人の責務として位置づけられました。

この取組は、次の3つの要件をすべて満たすことが必要となります。

- (1) 社会福祉事業または公益事業を行うに当たって提供される「福祉サービス」であること
- (2) 「日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービスであること
- (3) 無料または低額な料金で提供されること

具体例としては

- ・ 夏祭り等、イベントの開催による住民間のつながりの再構築
- ・ 働き手が少ない商店街との連携による就労支援
- ・ 公共交通機関がない地域での移動支援や買い物送迎支援
- ・ 災害支援ネットワークによる避難所支援
- ・ 刑余者の自立支援に向けた自立準備ホームの登録

などが挙げられます。

石巻市内にはたくさんの社会福祉法人がありますので、実際にどんな社会貢献事業に取り組んでいるのか、順番にご紹介していきたいと思います。

今回は「社会福祉法人つつじ会」さんをご紹介します。

インタビューにお答えくださった方は、理事長の土井一美さん、統括事務長の伊藤洋子さんのお二方です。

### 社会福祉法人つつじ会

- 法人所在地 石巻市蛇田字小斎61番地1
- 電話番号 0225-22-8261
- ウェブサイト <http://care-net.biz/04/tsutsujikai/>
- 設立年月日 平成9年8月4日



#### ■ 事業

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（地域密着型特別養護老人ホーム）、短期入所生活介護（ショートステイ、介護予防含む）、軽費老人ホーム（ケアハウス）、通所介護事業（デイサービス）、訪問介護事業（ホームヘルプ）、居宅介護支援事業所（ケアマネジメント）、地域包括支援センター、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

#### ■ 施設・事業所

特別養護老人ホームアゼイリア、特別養護老人ホームつつじの郷、ケアハウス小斎、石巻蛇田デイサービスセンター、石巻蛇田在宅ケアステーション、石巻蛇田居宅介護支援センター、石巻市蛇田地域包括支援センター、グループホームふれあい

#### ■ 社会貢献事業

- (1) 夏祭り等による住民間のつながり構築

特養とグループホームでそれぞれ開催しており、近隣の5行政区や子ども会へ声がけをし、参加した住民と施設利用者が交流をしています。自然な形の交流により、子どもたちには将来の福祉を考えるきっかけにしたいと考えています。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、残念ながら中止となりました。

- (2) 小学校・特別支援学校との交流等

蛇田小学校の福祉委員会の児童が施設訪問をし、児童が企画したものを披露したり、手作りの楽器と一緒に演奏したりして利用者との交流をしています。

石巻支援学校では定期的に授業の一環として、獅子舞や創作ダンスの披露、利用者との交流をしています。また、生徒の実習を受け入れすることもあります。

- (3) 積極的な障害者雇用

現在、障害者雇用率が4%を超えています。石巻支援学校や市外にある特別支援学校の卒業生の中には現在勤務している人もいます。

——今回は高齢者福祉を担う社会福祉法人として、つつじ会さんのご紹介です。社会貢献事業について、詳しくお聞かせください。

**伊藤**：年間の取り組みとしては夏祭りや芋煮会というものを開催し、地域の方々に参加の声をしています、この近辺の地区では夏祭りというものをしておらず、こちらで開催する夏祭りへ地域住民の方々にご参加いただければと思い、始めたところ。地区の回覧板に案内を載せてもらったり、子ども会の方々にもご案内を差し上げたりして、より多くの方々に参加していただきたいなということでお声をしております。

住民の方々がいらしたときには無償で飲み物や屋台の食べ物を提供しております。子どもたちも多くいらしているので、遊ぶ場所として、ヨーヨー釣り、的当てゲームとかをこちらで考えまして、子どもたちには楽しんでいただいております。

実施できなかったのは、震災のあった年とコロナ禍による昨年です。施設限定として開催し、利用者からの参加となっていました。

イベントのほかには、本当はもっと当法人施設を有効活用していただきたく、「場所を提供しますので、地区の方々に何かの会場として使って構いません」と声をしていますが、現時点でもなかなかそこまでは至っておりません。日曜日ですとデイサービスセンターが休みとなっており、場所が結構広く、カラオ

ケなどもありますので、自由に使ってもらっても構わない旨を区長さん方に伝えてあります。なかなか皆さん、ここまで出てくるのが億劫なのではないでしょうか。利用には至っていません。区長さんは蛇田全地区ではなく、施設周辺の5地区としています。

**土井**：近くに石巻祥心会さんの施設もありますし、学校もありますし、場所的には最高ですがね。更に昨年からコロナウイルスで人が集まること自体が難しくなっていますので実現にはまだ遠いです。



左から順に、理事長の土井一美さん、統括事務長の伊藤洋子さん

——施設利用者への面会もストップになっていますよね。

**土井**：現在、面会は禁止としております。施設自体での感染は今のところ発生していないので、発生した場合のことを考えると恐ろしいですね。石巻地区老施協（老人福祉施設協議会）の会議もないので、個々の施設での検討となってしまいます。

——面会ができないので、今ですと対策としてオンライン会議などがありますが、

オンライン導入についてはいかがですか。

**伊藤**：検討中です。遠方の家族もおりますし、県外からの面会はお断りしているので、オンラインで始めた事業所もありますが、本部のある施設ではまだ準備段階です。

**土井**：オンライン化がコロナ禍によりどんどん進んでいますが、コロナ禍が終息した場合、オンラインはどうなるのか。画面を通して相手を見るのか、生で面会するのかと比較したら、直接面会した方が良いと思いますし、画面を見るよりも直接触れ合った方が良いと思います。利用者の方々はオンラインの生活をして長年過ごしてきたわけではないですし、温かみが全然違うと思います。

——一方、オンライン化にすることで昔の措置時代のように家族が一切面会に来ない、施設任せになってしまうところに不安を覚えますが、いかがでしょうか。

**伊藤**：それはないとは言い切れません。面会もできませんが、施設からの外出自体を制限していますので、季節によって花見をしたり、紅葉を見に行ったりすることが一切できなくなっています。

——コロナ禍で地域住民の方との触れ合いがないのは、とてもさみしいですね。

**伊藤**：ボランティアさん方に対しても、今は受け入れをお断りしていますので、テレビや懐かしのDVD映像だけが施設利用者さんのお相手になってしまい、お

楽しみが激減しています。歌ったり、踊ったり、そういう場面も作れません。面会同様に、歌、踊りも映像よりも生が一番ですね。

**土井**：今はコミュニケーションとして職員の声がけしかないのですが、マスクをしているので表情が利用者の方には伝わりにくいと思います。



法人本部のある施設の全景

——施設のお祭りもできなくなっていますが、その中で工夫されていることは、ほかにございますか。

**伊藤**：今のところはコロナ禍の状況なので、新しいことを今は特に考えてはいませんが、事業としては蛇田地区としての地域包括支援センターを運営しておりますので、介護予防教室や体操教室を、感染症対策をしながら行っています。参加人数は以前よりは減っていますが、普通に開催しています。

逆に一人暮らしの方々が引きこもってしまうことを懸念していますので、「教室は感染症対策を十分に行ったうえであれば、通常のような開催頻度で実施しても良い」と石巻市からも言われていますので、対策をしながら開催しているところです。

——地域包括支援センターと言えば、会計検査院の意見で平成29年度から収益として黒字が出た分は、介護保険の保険者である各自治体（市区町村）へ返還しなくてはならなくなりました。

**伊藤：**そうですね。活動をしなければ地域の方々に何も還元できずに、収益を石巻市へ返還することになりますので、講習会のようなことをやってみたり、介護保険制度の説明であったりとか、寸劇も取り入れてオレオレ詐欺防止を説明したりしているわけです。

ただ、これまでは教室が終わってから、お茶を飲んだり、意見交換の場があったりしたと思うのですが、以前と違うのは、それができなくなってしまうところですよ。



地域包括支援センター主催の介護予防教室

——話は戻りますが、夏祭りではどれくらいの地区住民の方々がお越しになるのでしょうか。

**土井：**結構来てくれます。本部のある特別養護老人ホームアゼイリアで1回、特別養護老人ホームつつじの郷とグループ

ホームふれあいの合同で1回と、法人全体としては、計2回夏祭りを開催します。

**伊藤：**両方に参加してくれる方もいますし、どちらかに参加してくれる方もいます。

**土井：**最終的には子どもの参加が重要だと思います。高齢者の皆さんにとっては、子どもが来てくれると喜ぶはずですよ。子どもを呼ぶためにはどうしたら良いかを工夫しています。地域の子ども会との関わりが重要かなと思っています。

関連する話になりますが、福祉の業界はこの少子化をどうにかしなくてはならないという点が課題だと思います。

——祖父母と同居していない子どもは、高齢者にどう接したら良いか分からないという声を聞いたことがあります。

**土井：**顔を合わせるだけでも、会話するだけでも福祉だと思います。触れ合う機会としてこちらもイベントを考えています。子どもたちが早い段階で高齢者と関わることで、施設がどんなところかを理解できますし、高齢者とごく自然な形で関われるのは子どもの頃だからできることであり、そこから高齢者に対する思いやりというものが育まれると思っています。

しかし、この近辺には日常では子どもをあまり見かけません。小学校までは距離があるので通学では送迎されている子どもが多いのが要因と思われます。ここにも学童保育のように、子どもたちを預

かれるようなスペースがあれば良いのですが、そもそもこの近辺には子どもが少ないので実現は難しいです。



毎年、大勢の地区住民も参加する夏祭り

——話は変わりますが、この近辺の関係機関との連携はありますか。

**伊藤**：特別支援学校さんは、授業の一環として施設を定期的に訪問してくれているということがあって、お正月は獅子舞を披露してくださり、歌とか、創作ダンスとか、利用者の方々との触れ合いといった交流をしています。

また、蛇田小学校さんでは、福祉委員会というものがあまして、30人くらい施設へいらして、児童が企画した物を披露して、身の回りの物を使ってできる簡単な楽器を作ったりとか、作った楽器で音を鳴らして歌と一緒に歌ったりとか、折り紙とかをしたり、そういった交流が年1回あります。蛇田小学校さんの周囲にはその人数を受け入れてくれる大きな施設がないそうで、小学校からは少し離れています、こちらにいらっしゃるんですね。

あと、今、活動はされていないですけども、蛇田ボランティア友の会さんが毎月定期的に来てくれて、繕い物をしてくれたり、一緒にお茶を飲んで談話したりしてくれました。

——石巻支援学校さんのお話が出ましたが、生徒さんの実習受け入れは行っていますか。

**伊藤**：受け入れしています。ただ、実習受け入れですと、就労に繋げて欲しいという強い希望がありまして、うちの法人で採用枠がなければ実習自体をお断りするときもあります。

これまで、石巻支援学校さんの卒業生を一人、岩沼高等学園さんの卒業生を一人、雇い入れています。

**土井**：人との関わりの仕事なので、集中力が重要になります。フルタイムが難しい場合には、その人に合わせた短時間勤務にしたりして工夫しています。

**伊藤**：うちの法人は身体障がい者の方が多く、障害者雇用率としては4%を超えているところです。

——福祉資格取得のための実習受け入れはいかがでしょうか。

**伊藤**：1日に2人や3人を受け入れしているところです。集中するときはもう少し多いです。

石巻西高等学校さんでは、職業体験として1年生の生徒さんがいろんな事業所へ行って実習をしておりますが、こちら

でもご依頼があった際には対応しております。

——特別養護老人ホームとして、何か特別取り組んでいること等はございますか。

**伊藤**：措置での入所はもちろんのこと、低所得者への負担額軽減は当然行っています。

**土井**：特養以外として、訪問介護、ホームヘルパーについても運営していますが、求人を出してもなかなか応募がありません。ヘルパーサービスの利用需要はあるのに、供給ができない。以前よりもホームヘルパーの数が少なくなっている気がします。長年続けてきた事業ですから、ニーズがある以上、ヘルパーが確保できないから提供もできず事業を止めるということにはならないですね。ほかの法人ならともかく、社会福祉法人が簡単に「止めます」と言えるものではないです。

人員確保は非常に悩む問題です。それはどこの事業所も同じかと思います。ホームヘルパーは専門職なので、難しい仕事です。若い方が応募しないというのは、一人で訪問する自信がないからということもあると思います。

これからの課題は人材育成です。昨年度、職業体験の高校生を受け入れたときに確認したのですが、社会福祉法人に就職したいという生徒さんは少ないというお話でした。

**伊藤**：福祉業界に進みたいと思っている人は少ないようです。親もこの業界に入

ることを心配して、希望する福祉職への進路にストップをかけてしまう話も聞いていますし、学校の先生からも「君には向かないんじゃないか」と言われたりすることもあるようで、諦めてしまうことが多いようです。

**土井**：おじいさん、おばあさんが介護を必要として、在宅介護なり、施設サービスを利用したりしているお子さんがこの業界に進みたいということはありますが、全体からして一部だと思います。



地区の子どもたちの参加で賑やかな夏祭りに

——仕事をする目的として、何を重視するかは人によって異なりますが、給料面ということもあるのでしょうか。

**土井**：給料だけではないみたいです。雇用条件ということももちろんありますが、若い方々は都会へ行きたいという思いが強いようです。親から離れたたいという思いがあり、近場でアパートを借りて別居するとなると親もなかなか許しませんよね。「仙台に行く」と言われれば、「仕方がないかな」と親は折れると思うんです。そういうのがあるみたいです。

— インタビューを終えて —

理事長の土井さんは、「はじめにデイサービスを作り、続いて特別養護老人ホームアゼイリア、そしてケアハウス、新たに別の場所では地域密着型の特別養護老人ホームとグループホームを作り、在宅高齢者のためのホームヘルパー、ケアマネジャーのいる蛇田居宅介護支援センター、それから、蛇田地域包括支援センターがあり、今では、高齢者総合施設に相当する規模になりました」とおっしゃっていました。

高齢者を対象としたサービスを提供している社会福祉法人ではあるのですが、お話をうかがっていると、終始、子どもの話題が絶えませんでした。

高齢者施設であっても、子どもとの接点を持たせることで、高齢者にとっては生きる意欲が生まれ、子どもたちにとっては心の育成にも繋がり、双方にメリットがあるものと思われれます。

コロナ禍で残念なことに交流はできませんが、早い終息を願ってやみません。

少子高齢化社会で徐々に介護職としての担い手が減っていることにも危機感を募らせており、求人にしても、人材育成にしても、業界全体の課題であると問題提起なさっておりました。

また、担い手が確保の問題があっても、簡単にサービス提供を止めることにならないというお言葉には、社会福祉法人としての責務を感じられた一場面でした。

コロナ禍でますます生きづらさを感じる時代ですが、社会福祉法人つつじ会さんには、高齢者だけに留まらず、全世代がお互いを支え合う地道な活動を、これからも続けていただきたいと思います。

